

# 令和5年度事業報告書

社会福祉法人 朋和会

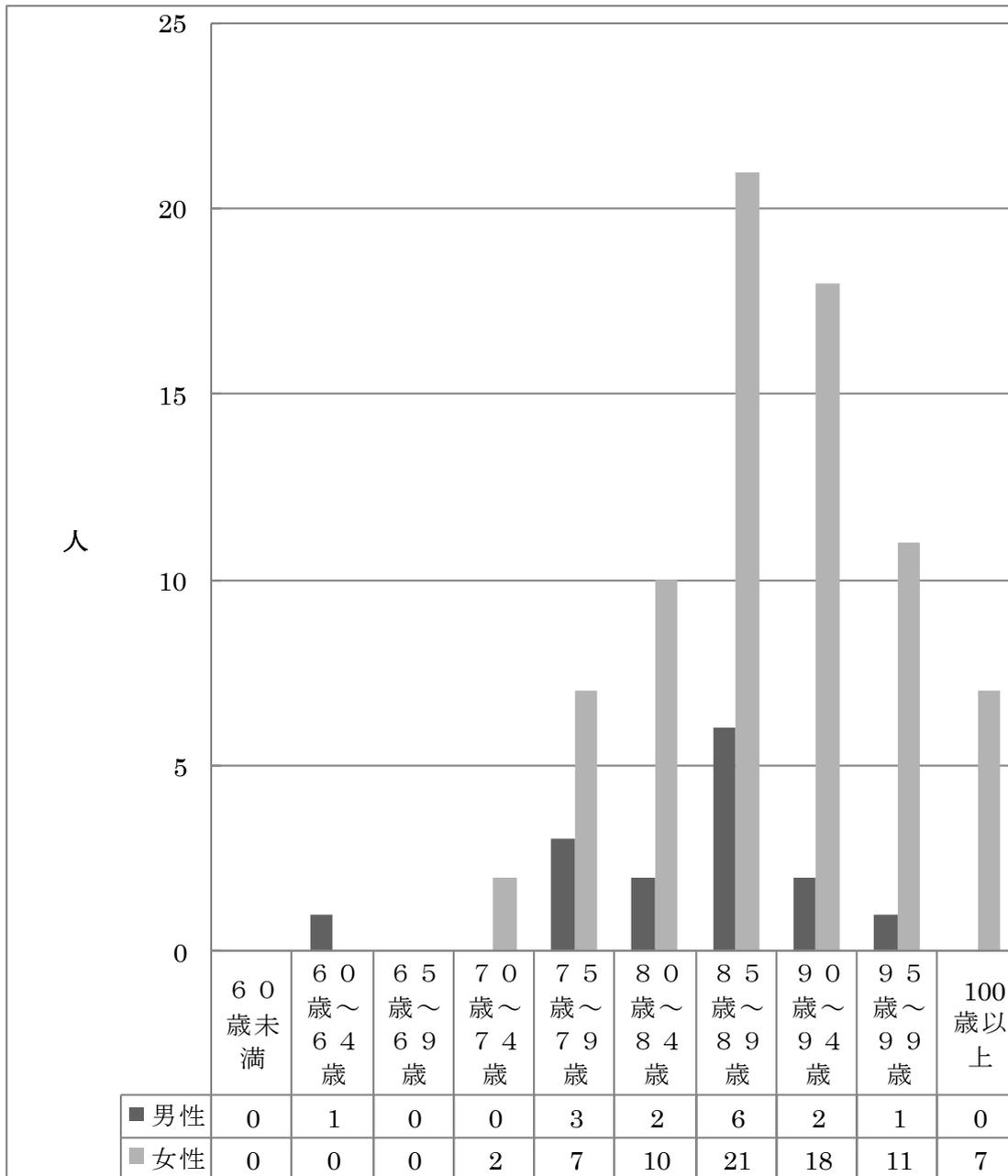
# 特別養護老人ホーム年輪

## 利用者状況及び施設内外での取り組み

- 1 利用者（入所者、退所者、在籍者）の各種情報と施設内外での研修や地域との交流、実習・研修の受け入れ等を報告します。
  - (1) 年齢別一覧（別表 1）
  - (2) 在所期間（別表 2）
  - (3) 入退所及び在籍状況（別表 3）
  - (4) 施設入所・待機者状況（別表 4）
  - (5) 施設稼働率と月別介護度（別表 5）
  - (6) 短期入所（ショートステイ）利用稼働率（別表 6）
  - (7) 施設利用者と短期入所利用者稼働率（別表 7）
  - (8) 短期入所生活介護事業利用状況（別表 8）
  - (9) 利用者ADL状況（別表 9）
  - (10) 利用者疾患別状況（別表 10）
  - (11) 週間・日課表（別表 11）
  - (12) 月別年間行事（別表 12）
  - (13) 地域交流状況（別表 13）
  - (14) 実習・研修受け入れ状況（別表 14）
  - (15) 職員研修会（別表 15）
  - (16) 施設外研修（別表 16）
  - (17) 診療状況（別表 17）

(別表1) 年齢別一覧

令和6年3月31日現在



	人数	最高年齢	最少年齢	平均年齢	内入院中 1名
男性	15名	99歳	60歳	83.9歳	
女性	76名	106歳	72歳	89.0歳	
合計	91名	全体平均年齢 88.2歳			

(別表2) 在所期間 (単位:人) 令和6年3月31日現在

在所期間	男性	女性	合計
6 か月未満	2	11	13
1 年未満	1	9	10
1 年～5 年未満	11	42	53
5 年～10 年未満	0	12	12
10 年～15 年未満	1	1	2
15 年～20 年未満	0	1	1
合計	15	76	91

令和 5 年度の利用期間 令和 6 年 3 月 31 日現在

	男性	女性
最長利用期間	13 年 2 か月 17 日	15 年 9 か月 14 日
平均利用期間	3 年 1 か月	

(別表 3) 入退所及び在籍状況 (単位：人) 令和 6 年 3 月 31 日現在

入所状況			退所状況		
男性	5	31	男性	4	34
女性	26		女性	30	
入所経路			死亡退所		29
在宅	14		入院・療養型入所		3
病院	10		転所、自宅		2
老人保健施設	4		死亡場所		
グループホーム	1		自施設		29
介護療養型医療施設	0		病院		2
その他福祉施設	2		その他退所		
			在宅復帰		1
			転所		1
			入院退所		1

(別表 4) 施設入所・待機者状況 (単位：人) 令和 6 年 3 月 31 日現在

施設入所前住所	在籍者数	入院者数	入所待機者数
堺市	77	1	124
他市	13	0	21
他府県	1	0	4
合計	91	4	149

※ 老人ホーム運営状況報告書に基づく

新規入所申込者数 (単位：人)

上半期	下半期	合計
40	32	72

(別表5) 施設稼働率と月別介護度

	令和4年度			平均介護度
	日数	延べ人数	稼働率	
4月	30	2,803	93.7	4.1
5月	31	2,882	93.1	4.2
6月	30	2,906	97.6	4.2
7月	31	3,019	97.5	4.2
8月	31	3,019	97.3	4.2
9月	30	2,871	96.3	4.1
10月	31	3,034	97.8	4.1
11月	30	2,907	97.1	4.1
12月	31	2,916	94.8	4.1
1月	31	2,746	89.6	4.2
2月	29	2,575	89.3	4.2
3月	31	2,734	88.8	4.2
合計	366	34,412	94.4	4.1

※ 合計欄は、国保連請求日数です。

※ 施設入所者100名定員での稼働率です。

※ 入所・退所・外泊時の当日は在籍扱いになるため、人数に含みます。

(別表6) 短期入所 (ショートステイ) 稼働率

	日数(日)	延べ人数(名)	1日の平均利用者数(人)	稼働率(%)	平均介護度
4月	30	160	5.3	66.6	3.1
5月	31	195	6.2	78.6	3.1
6月	30	265	8.8	110.4	3.2
7月	31	301	9.7	121.3	3.3
8月	31	294	9.4	118.5	3.4
9月	30	285	9.5	118.7	3.7
10月	31	294	9.4	118.5	3.6
11月	30	269	8.9	112.0	3.3
12月	31	333	10.7	134.2	3.5
1月	31	255	8.2	102.8	3.5
2月	29	298	10.2	128.4	3.7
3月	31	410	13.2	165.3	3.6
合計	366	3,359	9.1	114.6	3.4

※ 短期入所利用者 (8名定員) の稼働率です。

※ 人数の中には、介護予防短期入所、実費利用も含まれます。

(別表7) 施設利用者と短期入所 (ショートステイ) 利用者との合計稼働率 (単位:人)

月	日数	施設入所者	短期入所	合計	1日平均	稼働率
4月	30	2,812	160	2,972	99.0	91.7
5月	31	2,882	195	3,083	99.4	92.0
6月	30	2,906	265	3,177	105.9	98.0
7月	31	3,019	301	3,326	107.2	99.3
8月	31	3,019	294	3,313	106.8	98.9
9月	30	2,871	285	3,174	105.8	97.9
10月	31	3,034	294	3,328	107.3	99.4
11月	30	2,907	269	3,183	106.1	98.2
12月	31	2,916	333	3,273	105.5	97.7
1月	31	2,746	255	3,034	97.8	90.6
2月	29	2,575	298	2,890	99.6	92.2
3月	31	2,734	410	3,164	102.0	94.5
合計	366	34,421	3,359	37,917	103.5	95.9

(別表8) 短期入所生活介護（ショートステイ）事業利用状況

(単位：人)

	要 介 護 度						利用者 実人数	送迎 回数
	要支援	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5		
4月	0	3	8	6	2	6	25	54
5月	0	6	5	7	2	5	25	59
6月	0	3	6	8	4	4	25	64
7月	0	3	5	8	5	5	26	70
8月	0	2	3	10	4	5	24	58
9月	0	2	4	10	3	5	24	56
10月	0	2	5	6	2	4	19	36
11月	1	5	7	8	1	5	27	66
12月	2	4	4	7	3	7	27	72
1月	1	3	5	4	3	7	23	39
2月	1	3	4	4	3	7	22	42
3月	0	4	9	7	3	7	30	74
合計	5	40	65	85	35	67	297	690

## 短期入所利用状況

平均介護度	3.4
1日あたりの平均送迎回数	1.8

※ 平均介護度には、要支援の方は含まれていません。

令和5年度新規契約者数 38（前年度 31）人

緊急ショートステイ受入れ 14（前年度 7）件

## 居宅介護支援（ケアプラン）事業所別利用者数状況

(単位：人)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
本事業所	5	7	5	7	7	5	4	7	8	6	6	7	74
他事業所	20	18	20	19	17	19	15	20	19	17	17	23	224
合計	25	25	25	26	24	24	19	27	27	23	23	30	298

(別表9)利用者ADL状況

令和6年3月31日現在

			1階	2階	3階	合計	
移動	歩行	自力	0	4	2	6	
		杖	0	0	0	0	
		シルバーカー	1	1	1	3	
		歩行器	0	1	5	6	
		介助	0	4	0	4	
	車椅子	自走可	自力で乗れる	4	4	8	16
			介助で乗る	5	6	7	18
		自走不可	10	6	16	32	
離床困難			0	6	0	6	
排泄	トイレ	自立	0	8	6	14	
		声掛け・誘導	6	10	14	30	
		室内トイレ・夜間ポータブル・尿器	0	0	3	3	
		日中トイレ・夜間おむつ	4	1	4	9	
	常時おむつ		9	13	8	30	
	パルンカテーテル		1	0	4	9	
入浴	特浴		10	13	14	37	
	リフト浴		9	13	21	43	
	介助浴		1	6	4	11	
	清拭・シャワー浴		0	0	0	0	
着脱	自立		1	5	2	8	
	半介助		7	11	20	38	
	全介助		12	16	17	45	
食事	自立		10	20	28	58	
	半介助		5	3	3	11	
	全介助		5	9	8	22	
	食堂		20	32	37	89	
	居室		0	0	2	2	
	普通食	米飯	9	15	13	37	
		全粥	0	0	6	6	
	刻み食	米飯	7	3	0	10	
		全粥	2	6	15	23	
	ミキサー食	米飯	1	3	0	4	
		ミキサー粥	0	4	4	8	
	治療食	米飯	1	1	0	2	
		全粥	0	0	0	0	
	絶食		0	0	1	1	
経管栄養		0	0	0	0		

(別表10) 利用者疾患別状況 令和6年3月31日現在

疾患	男性	女性	合計
認知症	6	44	50
アルツハイマー型認知症	1	19	20
高血圧	8	50	58
心臓疾患	3	15	18
呼吸器系疾患	1	12	13
消化器系疾患	3	10	13
腎・尿路系疾患	5	6	11
糖尿病	3	12	15
パーキンソン病	1	3	4
精神障害	3	23	26
関節リュウマチ	0	2	2
大腿骨・股関節骨折後	1	18	19
悪性腫瘍	0	1	1
皮膚疾患	2	6	8
脳梗塞後後遺症	5	12	17
脳出血後後遺症	2	3	5
変形性股関節症	3	16	19
便秘症	11	55	66
眼科疾患	5	13	18
合計	63	320	383

※ 男性 17 名、女性 78 名 合計 95 名 (男女とも重複記載あり。)

(別表11) 週間・日課表

曜日	午 前	午 後
月	個浴(女)、座浴(女)、シーツ交換、 内科診察	寝浴(女)、座浴(女)、集団リハビリ
火	個浴(女)、座浴(女)、シーツ交換 理美容(月3回)	寝浴(女)、座浴(女)、個人リハビリ、売店
水	習字クラブ(月1回)、シーツ交換、 久保歯科診察(月1回)	寝浴(男)、個浴(男)、座浴(男) 個別リハビリ、整形外科診察(月2回)
木	個浴(女)、座浴(女)、	寝浴(女)、座浴(女)、集団リハビリ、 精神科診察(月2回)、生け花教室(月1回)
金	個浴(女)、座浴(女)、音楽療法、 内科診察、もりもと歯科診察	寝浴(女)、座浴(女)、個別リハビリ
土	誕生月食(月1回)	寝浴(男)、個浴(男)、座浴(男)、 個別リハビリ、泌尿器科診察(月1回)
日	個浴(男女)	ホーム喫茶(第2・4週)、 カラオケ(第3週)

※ 月～土の午前は、各フロアにおいてレクリエーションを実施しています。

#### 活動内容(希望者のみ)

- (1) 生け花教室(第3木曜日の午後)外部講師。新型コロナウイルス感染症発生のため、1月・2月は中止しました。
- (2) 習字クラブ(第1水曜日の午前)
- (3) 比嘉氏による音楽療法(第1・2・3金曜日)。新型コロナウイルス感染症発生のため、1月・2月は中止しました。

#### 年間行事

##### 行事・取り組み

- (1) 毎朝の放送(新聞等)
- (2) 誕生月の食事
- (3) 誕生月のお食事会(5月より再開、予約制)
- (4) 音楽療法
- (5) 健康診断(利用者、職員)
- (6) 施設内研修(施設外研修月を除く。)
- (7) 鉢ヶ峯慰霊塔清掃とお参り(毎月1日)
- (8) 季刊誌発行(年4回)

(別表12) 月別年間行事

月	行 事 内 容
4月	花見、花祭り、季刊誌発行(春号)、防災・避難訓練、合同慰霊祭、不在者投票
5月	端午の節句、防災・避難訓練、ガーデンパーティー、家族会、不在者投票
6月	防災・避難訓練、泉北梅教会慰問
7月	七夕祭り(各フロア)
8月	竣工記念、納涼大会、防災・避難訓練、季刊誌発行(夏号)
9月	敬老会、年輪花火大会、防災・避難訓練
10月	季刊誌発行(秋号)、防災・避難訓練、文化祭(新型コロナウイルス感染症発生のため中止)
11月	防災・避難訓練、みかん狩り、鍋食
12月	忘年会・クリスマス会(各フロア)、餅つき大会、大掃除、防災・避難訓練、鍋食
1月	新年祝賀会、初喫茶、書き初め、鏡開き(施設内でコロナ発生のため中止)、七草粥、季刊誌発行(新年号)、初詣、鍋食(施設内でコロナ発生のため中止)
2月	節分祭(コロナ発生で中止)、防災・避難訓練、鍋食
3月	雛祭り(各フロア)、防災・避難訓練、鍋食、マイナンバーカード訪問申請

(別表13) 地域交流状

	慰 問・交 流 (中止)	見 学	ボランティア
4月		施設見学 1件	生花(田畑氏)
5月		施設見学 1件	
6月	泉北梅教会	施設見学 2件	
7月		施設見学 5件	
8月		施設見学 1件	
9月	落語会「落語家 桂吉坊師匠」	施設見学 5件	
10月		施設見学 1件	
11月		施設見学 5件	
12月		施設見学 0件	
1月		施設見学 0件	
2月		施設見学 0件	
3月		施設見学 7件	

(別表14) 実習・研修受入れ状況

令和6年3月31日現在

学校名		段階	実習内容	日数	実人数	延べ人数
福祉専門 短大・大学	大阪健康福祉専門学校	介護福祉士	特養	20	2	40
高校・ 中学校	清恵会医療専門学校	看護師	特養・在宅	1	35	35
				3	4	12
				6	4	24
	近畿大学付属看護学校	看護師	特養・在宅	1	17	17
	堺市医師会歯科衛生士学校	歯科衛生士	特養・在宅	0	0	0
	大阪府立堺東高等学校	総合学科	特養	0	0	0
	大阪府立成美高等学校	総合学科	特養	0	0	0
	大阪府立泉北高等支援学校		2年生	特養	0	0
1年生			特養	0	0	0
その他	桃山教育大学	教員養成	特養・在宅	0	0	0

※ 在宅実習は、デイサービス・グループホームの実習となっています。

※ 従来受け入れていましたが、今年度は、受入れ「0」のところが多くなっています。

(別表15)

令和5年度 施設内研修

研修日時	研修内容	備考
4月22日(土)	机上訓練	法人職員
5月21日(土)	法人行事(ガーデンパーティー)	法人職員
6月17日(土)	消防訓練	法人職員
7月22日(土)	感染症・食中毒(嘔吐物処理実践研修)	法人職員
8月19日(土)	人権について	施設長
9月16日(土)	法人行事(敬老会)	法人職員
10月21日(土)	虐待について(アンケート結果他)	看護部長
11月18日(土)	認知症について	認知症とのかかわりグループ
12月17日(土)	大掃除	法人職員
1月20日(土)	不審者対応について(さすまたの使い方)	法人職員 (有)佐野機工大阪営業所 所長 平川正樹氏
2月17日(土)	リスクグループより	リスク研究グループ
3月16日(土)	各研究グループの年間報告発表	法人職員

※ 3密予防のため、換気と2部入れ替え制で実施しました。

## 研修方法

- (1) 職員による研究委員会の活動経過発表
- (2) 感染症対策と館内の清掃
- (3) 各職種の研修会参加報告と感想の発表
- (4) 講師を招いての勉強会
- (5) 書面を用いてレポート提出

### 【メディパスアカデミー介護】

令和5年度より下記の内容をオンラインで受講し、レポートを提出しました。

1	プライバシーの保護の取り組みに関する研修	10	精神的ケアに関する研修
2	身体拘束の排除のための取り組みに関する研修	11	ターミナルケアに関する研修
3	緊急時の対応に関する研修(福祉用具含む)	12	生活リハビリ研修
4	倫理及び法令順守に関する研修	13	高齢者虐待防止に関する研修
5	感染症・食中毒の予防及び蔓延防止に関する研修	14	福祉車輛安全運行研修
6	事故発生又は再発防止に関する研修	15	チームケア
7	接遇に関する研修	16	高齢者に多い疾患研修
8	認知症及び認知症ケアに関する研修	17	医療に関する教育、研修
9	精神的ケアに関する研修	18	非常災害時の対応に関する研修

### (別表16) 施設外研修

研 修 内 容		日 付
施設長	認知症者の詐欺被害を心理学的にみる(東京)	5月13日
	新型コロナウイルス感染症5類移行後に対する心得	5月17日
	2024年介護保険制度改正の方向性	6月14日
	公正採用選考人権啓発推進員 基礎研修	6月
	人権リーダー養成講座	9月20日
	日本認知症グループホーム全国大会	10月21.22日
	女性の会「世界の中の日本～今、求められる国際的視野」	11月25日
	どうなる2024年度介護報酬改定	11月7日
	近老協 施設長研修会	2月1日
	介護報酬改定2024研修会	2月1日
介護	排泄支援について	11月22日・2月21日
	眠りスキャン研修	9月～3月 計5回
	火災予防研修(施設・デイ・グループホーム)	3月19日

(別表17) 診療状況

(単位：人)

処置内容													
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	総計
点滴	30	53	32	44	74	88	54	35	37	84	69	11	611
注入	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
酸素吸入	5	6	5	4	4	5	5	4	3	10	9	6	66
バルーン留置	3	3	3	4	4	4	4	4	4	4	6	5	48

(単位：人)

病態別内訳													
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	総計
嚥下障害	10	11	10	10	9	11	12	12	10	10	11	9	125
肺炎	5	6	4	7	6	8	7	9	6	11	8	2	79
食欲不振	2	2	2	2	2	2	3	3	3	4	4	3	32
栄養不良	6	7	6	7	7	7	8	8	8	7	7	7	85
骨折	2	1	1	0	0	1	0	1	0	0	3	1	10
意識障害	5	4	0	0	0	4	5	5	3	3	1	2	32
心不全	8	8	8	8	8	9	9	9	9	9	8	8	101
胃ろう	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	12
悪性腫瘍	2	3	3	3	3	2	2	3	3	3	3	3	33
糖尿病	14	14	15	15	15	14	14	14	14	14	15	15	173
腎不全	3	3	3	3	3	3	3	3	4	4	3	3	38

疾患別状況（令和6年3月31日現在）

疾患	男性	女性	合計	疾患	男性	女性	合計
認知症	6	40	46	関節リュウマチ	0	2	2
アルツハイマー型認知症	2	18	20	大腿骨・股関節骨折後	0	14	14
高血圧	5	43	48	悪性腫瘍	1	3	4
心臓疾患	3	14	17	皮膚疾患	6	15	21
呼吸器疾患	3	7	10	脳梗塞後遺症	3	11	14
消化器疾患	3	11	14	脳出血後遺症	2	2	4
腎・尿路系疾患	4	5	9	変形性関節症	1	8	9
糖尿病	2	10	12	便秘症	10	75	85
パーキンソン病	0	1	1	眼科疾患	3	20	23
精神障害	1	8	9				
				合計	55	307	362

※ 男性16名、女性76名 合計91名（うち1人入院中）又男女ともに重複有

## 診療所の状況まとめ

- 1 診療状況は、月単位で内科 40 名、整形外科 20 名、精神科 60 名、泌尿器科 6 名、歯科 10 名でした。（口腔衛生管理加算の準備のため、週 1 回歯科往診を実施しました。）処置の中での点滴は、月単位で 10～15 名、傷の処置は平均で 5 名程度でした。

緊急搬送を含む入院が 14 名ありました。主な疾患は、骨折、尿路感染症、誤嚥性肺炎、糖尿病、胆嚢炎でした。

- 2 令和 5 年度の死去数は 31 名であり、うち 29 名を施設で看取りました。食事は、その時の状態にあった食事形態で、可能な限り食べていただける工夫や本人の意思を尊重して嚥下状態をみながら行いましたが、場合によって点滴による水分補給に移行しました。

しかし、点滴を行うことでかえって苦痛を伴うような状態であれば、点滴も中止し、自然な死期を家族とともに安心して迎え入れられるように環境を整えました。

入浴は、状態を観察しながら実施しました。酸素吸入は、医師の指示のもとで呼吸が楽になるように実施しました。穏やかな最期を迎えられるようにするには、さらに普段からの健康状態の把握と急変時の対応や事故を防ぐ安全管理に留意し、納得できるようにケア全体の質の向上につとめました。

また、家族・本人の意向を取り入れることが重要であると考え、死後の処置も家族に参加していただき、少しでも家族が死を受け入れられるよう、又家族が安心して看取りに向き合えるように取り組みました。

- 3 インフルエンザワクチン接種は 10 月～12 月の間に利用者・職員、可能な限り全員に行いました。インフルエンザの感染は、利用者 8 名、職員 7 名でした。
- 4 コロナワクチン接種を 5 月～9 月の間に 1 回、利用者・職員等可能な限りほぼ全員に行いました。何人かに熱発、倦怠感、腕の痛み等の副反応がありましたが、重症者はいませんでした。

新型コロナウイルスの感染者は、利用者 21 名、職員 10 名でした。令和 5 年度も新型コロナウイルス感染症の対策を徹底しました。マスク着用・フェイスシールド着用、手洗い・手指消毒を徹底しました。また、職員は出勤前に自宅で検温し、ウイルスを持ち込まないように気をつけました。今後も引き続き感染対策をしていく必要があります。

定期的に勉強会を行い職員全体が感染対策を常に心掛け、意識していくことが必要であると考えます。今後も職員の健康管理を徹底していくことで安心してケアの提供ができ、安全な施設生活を送っていただけると考えます。

## 『生きがい対策』（生活相談員）

### 1 活動内容

感染予防対策に十分に配慮し、数名又は個別での生きがい外出を実施しました。

### 2 まとめ

#### 新型コロナウイルス感染症の影響

- (1) 今年も新型コロナウイルス感染症の影響は続きましたが、感染予防対策に配慮し、行事に取り組むことで、より良い生活環境の構築に努めました。

利用者や家族からの不安の声や混乱も多かったため、一人ひとりの声「その一言」や希望に耳を傾けるように努めました。

会議を繰り返し、行政の指針を踏まえて感染予防を行いながら、少しでも気分転換や楽しんでいただけるよう、年輪敷地内でのお花見、花火大会を実施したり、ドライブ、ミカン狩り、初詣に出かけたりしました。

- (2) 面会の制限や行事を中止したため、季刊誌やホームページ、インスタグラム(SNS)を活用し、フロア別で実施した行事・日ごろの様子などを家族や外部へ発信しました。携帯電話(LINE)の活用を継続し、家族の自宅等から直接テレビ電話が行えるようにしました。

看取り期の利用者の面会については、個別対応で入室面会を認め、その他の利用者の面会は、世の中の発生状況や施設の状況等からその都度判断を行い、ガラス越し面会をお願いしたり、時間の制限は設けたりしましたが入室での面会を実施しました。

- (3) 退所者数は、12月、1月、2月と死亡者の増加に伴って稼働率が減少しましたが、入所前面談や施設見学が困難になり、入所を円滑に行えない状況もありました。

- (4) ショートステイでは、受け入れ基準などを検討するため、会議を繰り返し、家族・本人の状況に合わせて、できる限り柔軟に対応しました。

利用者本人も熱発や濃厚接触があり、キャンセルもありました。利用者にマスクの着用を促し、利用前後の検温と体調確認を行うとともに、必要時には抗原検査を実施し、安心安全の利用に努めました。

## 『一人ひとりの思いを受け止め、汲みとるケアを目指す』(介護課：介護士)

### 1 処遇報告

各フロアの特徴を活かしながら、利用者への生活の支援に努めました。

- (1) 1階フロアは、他のフロアに比べ、利用者が少ないため、利用者個々の把握も行い易いこともあり、毎月一人ひとりのケアの検討や見直しを行い、今年度の目標である「笑顔と共に」安心して過ごしていただけるようケアにあたることができました。

また、機能訓練指導員とも連携し、集団体操に参加していただいたり、利用者ができることを継続して行っていただけるように務めました。

- (2) 令和5年5月8日より、新型コロナウイルス感染症も5類となりました。家族との面会なども制限のある中の再開となりましたが、居室担当を中心に家族との情報の共有に努め、ゆったりとした雰囲気の中、毎朝のレクリエーション活動、アクティビティなど少しでもフロアでの生活が充実できるよう心掛けました。また、利用者同士の馴染みの関係を保ちながら、少しでも楽しく生活していただけるように努めました。

- (3) 令和6年1月初旬に感染症胃腸炎が蔓延し、利用者への感染を早期収束できるよう検討を行い、スタッフの協力を得ながらケアにあたりました。

- (4) 2階フロアは、入浴設備があり、他フロアの利用者とも交流を図ることができる場でもあるため、その機会を活用し、社会生活を感じられる支援にも努めました。

余暇生活として、レクリエーションなどでは身体機能を維持するために体操レクリエーション

ョンに励んでいただけるよう支援し、又機能訓練指導員が実施しているフロアでの集団リハビリ体操と共に、利用者の身体機能や活力の維持を図るよう支援しました。

職員による朝のレクリエーションなどでも、健康体操や世の中の話題やニュースなどをお伝えするなどし、心地よい余暇生活の提供に努めました。

(5) 新型コロナウイルス感染症も令和5年5月8日から5類に移行され、15分という時間制限を設けながらではありましたが、2階フロア内のパブリックスペースなどを活用し、家族とのフロア内での面会を再開し、利用者の生活状況を家族にも実際にご覧いただき、和やかに面会できる環境を整えました。

(6) 令和6年1月には、インフルエンザ、感染性胃腸炎、新型コロナウイルス感染症と立て続けに確認されましたが、昨年度のようなパンデミックは生じずに終息を迎えることができました。

感染拡大が生じなかった要因の一部としては、昨年度に経験した感染者への対応方法などが経験値となり、緊急のミーティングや以前対応した感染拡大予防の対策などを早急に講じることができたために、終息まで短期間で済んだことが考えられます。また、チーム力も向上することもできました。

ただし、以前の新型コロナウイルス感染症発症時と対応が全く同じではない対策もあったため、今後、新型コロナウイルス感染症が確認された場合のマニュアルなどを作成すべきだとの意見もあり、今後も対策マニュアルなどの充実を図っていきます。

また、今後も引き続き、新型コロナウイルス感染症への感染予防として、日常の消毒の徹底や清掃などに努め、感染予防を継続していきます。

(7) 3階フロアでは、「心が和む、ほっとする生活空間」を目標に設定し、ケアにあたりました。様々なADLの方がおられるフロアですが、レクリエーション活動等を楽しみにされている方も多く、毎朝の体操や歌をうたうなど、生活の一つの楽しみとして取り組むことができました。

そして、利用者が主体となってカラオケなどもされるなど利用者間の交流も図ることができました。

また、音楽を流したり、コミュニケーションを心掛けたり、楽しみを持ち、安心して過ごしていただけるように努めました。

(8) 3階フロアの利用者の重度化も著しく、多くの方の看取りケアも行い、その方に如何にケアを行うかその都度話し合いをもち、考えながらケアを行いました。

(9) 個別訓練に関しては、機能訓練指導員と利用者の状態の変化などの情報を共有し、ADLの維持に努めました。

(11) 面会の制限も解除になり、直接家族と会い、利用者の喜ばれる姿や家族からもその方のお話も直接行うことができ、利用者、家族共に更なるコミュニケーションを図ることができました。

## 2 リーダー制

(1) 主任、副主任、中堅職員だけでなく、その他の職員も新たにリーダー職を担うことにより、チーム力の向上につながっているように思います。

- (2) 長時間労働の是正と働き方改革により、リーダー業務も業務時間内で行うようにし、時間外勤務の削減に努めました。

### 3 居室担当

- (1) 利用者の状態を中心的に把握したうえで、利用者にあったサービスを提供できるよう検討し、利用者にとって安心して寛げる環境になるように努めました。
- (2) 利用者の好みや季節にあった入浴衣類を用意しました。現在、衣類準備専属の職員を配置していますが、入浴後の衣類については、季節に応じた衣類や、本人が好む衣類等を伝達するなど、以前実施していた居室担当によるものに比べレベルが下がらないよう配慮しています。
- (3) 他には、居室担当職員と家族との信頼関係を育むことを目的として、利用者の施設内での生活状況や体調や身体的な変化などを面会時や電話連絡などを活用し、現状報告の実施を行いました。

### 4 生きがい外出

- (1) 今年度はコロナ禍により、外出などの活動は実施できませんでしたが、施設テラスやベランダなどを活用し、外気浴などを実施することで、少しでも外出気分を感じていただきました。
- (2) 生きがい活動として、昨年度利用者から好評をいただいた花火鑑賞も引き続き実施でき、大変好評で利用者に喜んでいただけました。

### 5 入浴

- (1) 利用者の身体レベルに応じて、どの入浴方法が利用者にとって一番良いのかを随時検討しながら寝浴・座浴・介助浴の中から、週2回以上の快適な入浴を実施しました。
- (2) 入浴前に検温を行い、看護師との連携を図り、健康管理に努めました。体調不良などで万が一入浴できない場合でも、清拭・着衣交換を行い、清潔保持と身体の変化の早期発見に努めました。
- (3) 家庭浴槽に近い個室での入浴では、昨年度と同様、ゆっくりと入浴していただくことを心がけ、入浴中は職員とのコミュニケーションを深く図り、利用者の休息の場として入浴を楽しんでいただきました。

### 6 排泄ケア

- (1) 排泄グループを中心にKOYO排泄コンシェルジュからアドバイスをいただきながら、排泄ケアの向上に努めました。
- (2) 利用者に応じた排泄パットの選定や両面パットの使用の見直しなども行い、コスト削減への取り組みも継続して行いました。
- (3) スキントラブルの防止にも取り組み、対象者を選定し、泡洗浄の実施やスキンケアコットンなど新たな取り組みも行い、皮膚トラブルや尿臭の改善に効果を出すことができました。

## 7 赤ちょうちん

- (1) 行事の際に赤ちょうちんのブースを出し、いつもと違った雰囲気の中で実施し、お酒やノンアルコール飲料やジュース、お菓子などを提供し、楽しんでいただきました。
- (2) 食事の時に飲酒を希望される方が増えたため、売店で購入し、希望時に随時提供も行いました。普段とは違う雰囲気の中でゆっくりと利用者との会話を楽しみ、喜んでいただくことができました。今年度は実施回数が少なかったため、今後はもっと回数を増やして、楽しんでいただけたらと考えています。

## 8 リラクゼーション

- (1) 快適な生活の提供、身体のリラックスによる精神的安定を図ることを目標に、レクリエーション活動時に音楽を流し、ハンドマッサージなどを行いながらコミュニケーションをとることで少しでも施設生活の癒しの時間ができたらと考えながら実施しました。
- (2) ガーデンパーティを実施し、喜んでいただくことができました。文化祭も実施する予定でしたがインフルエンザ等の感染が確認され、中止となりましたが、来年度に向け施設生活における癒しの時間を提供ができるよう努めたいと考えています。

## 9 外気浴

- (1) コロナ禍で外出の機会が減っていますが、外に出ることで、利用者に日光や心地よい空気を感じながら季節を味わっていただくために、春には玄関前や別館内から桜の花見、秋には施設内の日当たりの良いベランダで観葉植物などを観賞していただきました。
- (2) 気候が良い日には4階テラスで、個別の日光浴を行うなど利用者の気分転換に努めました。
- (3) 気候により外気浴ができる期間は限られているため、利用者が均一に外気浴を楽しめるように記録管理を行いながら実施しました。

## 10 外出

利用者の日々の生活に刺激を持ってもらい、楽しみを感じながら過ごしていただくことを目的に、利用者の希望・要望を確認し、定期的に外に出る機会を作るように取り組んでいきたいと考えていましたが、今年度も引き続きコロナ禍で外出することができませんでした。

## 11 生け花、習字などのクラブ活動

別館の多目的室を使用し、参加希望者を少人数のグループに分けて、クラブ活動を実施しました。今年度もコロナ禍の影響により、年度途中までは外部講師の来所が難しい状況でしたが、年度途中より、生花教室に関しては外部講師を招いてのクラブ活動が再開できることとなり、専門的な生花教室を利用者に楽しんでいただくことができました。

## 12 ICT・介護ロボットの導入。

- (1) 眠りスキャンを増台したことにより、利用者の睡眠リズムに応じた排泄ケアや生存確認、又転倒事故の予防など、利用者の安全且つ快適な就寝効果に繋がっています。

また、眠りスキャン委員会にて、眠りスキャンの使用対象者を随時検討し、使用方法につ

いても委員会で取り組みました。

- (2) 今年度の新たな取り組みにおいては、眠りスキヤンの新たなサービスでもある、眠りスキヤンの使用方法をより質の高い活用をしていくための『BPメソッド』を取り入れました。
- (3) 眠りスキヤン製品に携わる講師との勉強会をリモートで実施し、入眠サイクルに応じたケアの方法や入眠の分析などを我々スタッフが実施していくことができるよう、眠りスキヤン委員を中心として、定期的に勉強会を行いました。
- (4) スマートフォン用の眠りスキヤンのアプリを活用し、職員が常時携帯することで、眠りスキヤンの検知を見逃すことなく、対応しています。  
タブレット端末を導入することで、利用者の見守りをしながら、データ入力業務などを行うことができ、利用者への安全性且つ業務の効率化を高めることに繋がりました。
- (5) ロボット（ロボヘルパーサスケ）を 2 台活用し、大柄な利用者の移乗介助に使用しました。利用者からも、直接抱える介助より、移乗時の痛みが少ないとの声もありました。

### 1.3 新型コロナウイルス感染症対策

- (1) 感染防止対策として前年度から実施している職員出勤前の自宅で検温、出勤時本館に入る前の手洗いの徹底を継続しています。また、自宅での体温をタイムカードに記入することも継続しました。
- (2) 利用者に接触する場合は、手指の消毒を心掛け、口腔ケア時や濃厚接触に該当する可能性のある業務（入浴介助、排泄介助、口腔ケアなど）に関する記録方法を対応した職員が確定できるようにしています。
- (3) 緊急事態宣言中は、直接面会をすべて中止しましたが、令和 5 年 5 月 8 日より 5 類感染症に移行され、一定の時間制限を設けながらではありましたが、家族とのフロア内での面会も再開し、普段生活をされている場所で、その生活状況などを実際にご覧いただき、和やかに面会できるように環境を整えました。
- (4) 出入り業者には、物品の受け渡しは窓口で行うようにし、施設内に立ち入る場合は、体温測定をしていただき、発熱のある方には、入管をお断りしています。
- (5) 施設内では、システムによる 24 時間換気とは別に、窓を開けるなどの定期的な換気と手摺り等の消毒を徹底しています。
- (6) 職員は、週 2 度の抗原検査を行い、職員の感染状況の確認にも努めました。令和 5 年度にも各フロアにおいて新型コロナウイルス感染症への感染確認が認められた時期もありましたが、前年度の感染者の確認時の対応方法や対策などを活用しながら、今回も感染拡大の予防として、利用者の居室での隔離ケアや、各フロア間移動を閉鎖し、ケアにあたりました。
- (7) スタッフへの感染拡大予防のため防護服の着用やN9 マスクの使用など更なる消毒の徹底などを行いました。各フロア間の移動を中止したため、スタッフのフロア間の移動ができない状況になりましたが、タブレット端末を使用し、リモートで状況報告や伝達、連携などを行いました。
- (8) 職員にも数名の新型コロナウイルス感染症への感染が認められましたが、勤務変更なども『ケアズコネクト』のスマホ用アプリの活用などで、勤務変更の周知も混乱することなく、実施することができました。

#### 1 4 オンライン学習『メディパスアカデミー介護』の導入について

今年度もパソコン、携帯電話、タブレット端末から『メディパスアカデミー介護』の動画による研修をいつでも、どこでも受講することができ、業務の隙間時間を有効活用しながら、介護に関する幅広いテーマを学習し、スタッフ間で共有することで、介護の質の向上やスキルアップの効果を図りました。

#### 1 5 訪問歯科

以前から定期的に歯科医の訪問診療をしていただいておりますが、併せて、毎週金曜日に訪問歯科を導入し、歯科医院とノートを活用しながら、連携を行いました。利用者も毎週来ていただけるということで、今までより直ぐに診てもらえることができ、安心感にもつながり、又各フロアで実施していただくことで、利用者の口腔ケア向上にも関心を持つことができました。

### 「利用者の残存機能維持・改善・低下の予防を目指す。」（機能訓練指導員）

- 1 定期的なモニタリングの実施による訓練計画の見直しと評価を行うとともに、利用者の日常生活状況の再確認を行い、身体的・精神的負担とならないように長・短期目標の設定を行いました。定期的なカンファレンスを実施して、個別機能訓練計画書の見直しをしながらやプログラム作成しました。
- 2 集団的体操・個別訓練を実施することで、生活関連動作の獲得・改善・維持に努め、安心と安全、豊かで楽しい施設生活を過ごせるよう、指導・支援を行いました。  
日常生活上で身体を動かすことも機能維持の手段と捉え、各職種との連携を図り、離床の促進に取り組みました。
- 3 パソコンを活用し、個人毎に実施記録を保存することによって、各部署との情報共有・連携を図れるように取り組みました。
- 4 集団体操は、毎週月・木曜日の週 2 回実施し、個別機能訓練では獲得できない動作、他の利用者との交流など社会参加を含めた効果を得ました。
- 5 令和 6 年 1 月・2 月に当施設で感染性胃腸炎及び新型コロナウイルス感染症により、集団体操・個別機能訓練を中止して、感染予防作業に従事しました。その後は、手洗いやうがい、消毒など感染予防対策を徹底したうえで集団体操・個別機能訓練を再開しました。  
月・木曜日午後に集団的体操を、火・水・金・土・日曜日午後に個別訓練を実施しました。

## 令和5年度 月別実施延べ人数

(単位：人)

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
集団的体操	372	401	440	386	371	307	401	391	309	116	151	144	3,789
個別訓練	252	254	252	252	252	248	256	250	249	200	151	147	2,763

## 「安心・安全な食生活のために」処遇内容の報告：管理栄養士

## 1 食事提供

(1) 利用者の年齢・健康・嗜好を考慮しながら、生活に豊かさと満足感を味わえるような食事の提供に努めました。

徹底した衛生管理により食中毒を防ぎ、安心かつ安全な食事を提供できるよう努めました。  
食材費の高騰に対応するため、見積依頼を行い、又業者の選定を行いました。

## (2) 衛生管理

HACCPに則り、衛生管理計画を実施しました。

感染症発生時には、感染症対策マニュアルに沿って対応しました。

## (3) 年間実施食数

	特養	ショートステイ	デイサービス	グループホーム	職員
年間食数	136,984	12,667	6,863	9,581	18,865
1日平均食数	374	35	22	26	52
1食平均食数	94	9		9	40(昼食)

## (4) 栄養ケアマネジメント

ケアプランの内容に基づき、栄養ケアを実施しました。

多職種連携に努め、情報を共有し、利用者の状況を常に把握するよう努めました。

## (5) 緊急災害時の備え

最低3日以上以上の非常食を保存し、見直しを行いました。

## (6) 令和5年度 行事食

月日	行事名	月日	行事名
毎月第1土曜日	誕生日食	10月31日	ハロウィン
4月8日	花祭り	11月18日	鍋食(ちゃんこ鍋)
4月14日	春風御膳	12月16日	忘年会(白湯スープ鍋)
5月5日	子供の日(散らし寿司)	12月25日	クリスマス食
5月21日	ガーデンパーティー 昼食:屋台メニュー	12月28日	餅つき
6月23日	ドリアランチ	12月31日	大晦日
7月7日	七夕そうめん	1月1日~3日	正月料理
7月30日	土用の丑(うなぎ御膳)	1月7日	七草
8月11日	創立記念膳	2月14日	バレンタイン
8月23日	盆踊り(屋台メニュー)	2月17日	鍋(味噌ちゃんこ鍋)
9月9日	重陽の節句	3月3日	ひな祭り(散らし寿司)
9月18日	敬老の日御膳	3月16日	鍋(豆乳鍋)
10月21日	年輪文化祭(秋の行楽弁当)		



## デイサービスセンター年輪

※ 従来、定員 25 名で実施していましたが、新規問い合わせ・体験利用希望者の増加等により、定員数がオーバーする日も出始めたため、できるだけ利用希望に添えるように、令和 4 年 7 月 1 日付で法定上の定員を 30 名に変更しました。基本的には定員 25 名で運営しています。

### 1 事業内容

(1) 利用者数 (単位: 人) 令和 5 年 3 月 31 日現在

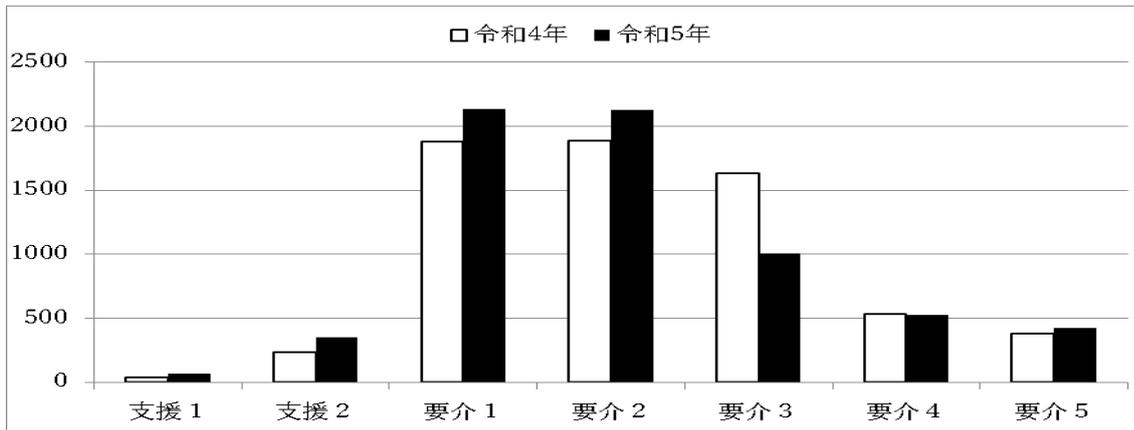
	男性	女性	合計
通所介護	27	33	60
介護予防日常生活支援総合事業	0	9	9
合計	27	42	69

(2) 介護度別利用者数合計 (単位: 人) 令和 5 年 3 月 31 日現在

要支援 1	要支援 2	要介護 1	要介護 2	要介護 3	要介護 4	要介護 5
3	6	17	22	5	7	9

通所介護・介護予防日常生活支援総合事業の月別介護度別利用実績と稼働率

	稼働日	要支援 1	要支援 2	要介護 1	要介護 2	要介護 3	要介護 4	要介護 5	合計	稼働率 25 名	稼働率 30 名
4 月	25	2	24	171	159	116	36	27	535	85.60	71.33
5 月	27	0	25	200	171	125	35	19	575	85.04	70.86
6 月	26	0	19	212	172	131	35	31	600	92.46	77.05
7 月	26	0	31	189	163	150	38	34	605	93.07	77.56
8 月	26	2	33	202	147	109	54	34	581	89.38	74.48
9 月	26	3	28	193	157	101	56	30	568	87.38	72.82
10 月	26	4	29	159	185	58	58	18	511	78.61	65.51
11 月	26	5	27	146	183	63	47	50	521	80.15	66.79
12 月	25	16	29	161	193	39	40	43	521	83.36	69.46
1 月	24	12	36	170	168	37	31	45	499	83.16	69.30
2 月	25	14	33	167	199	38	37	43	531	84.96	70.80
3 月	26	12	41	165	228	37	57	48	588	90.46	75.38
合計	308	70	355	2,135	2,125	1,004	524	422	6,635	86.14	71.78



↑ (利用回数) (介護度) →

月別・年度別利用延べ人数と稼働率の表とグラフでの比較 (単位: 人、%)

※ 令和4年7月1日付けで定員を25名から30名に変更しましたが、令和4年度稼働率は定員25名で計算しています。

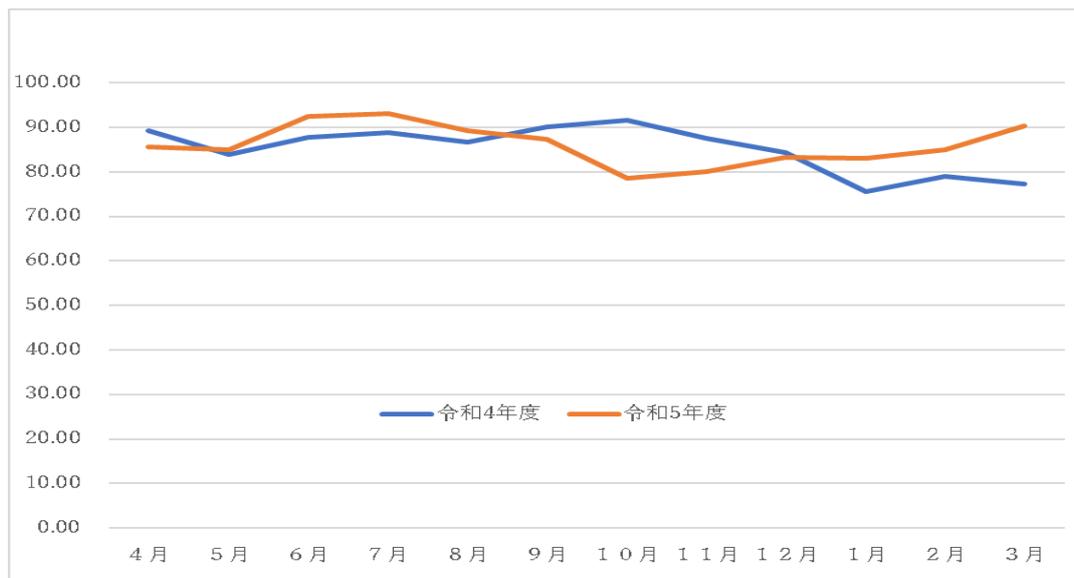
令和4年度

月	合計	稼働率 25名 (%)
4月	581	89.38
5月	546	84.00
6月	570	87.69
7月	577	88.76
8月	586	86.81
9月	586	90.15
10月	595	91.53
11月	569	87.53
12月	549	84.46
1月	435	75.65
2月	474	79.00
3月	522	77.33
合計/平均	6,590	85.19

令和5年度 (利用定員を25名、30名とした場合)

月	合計	稼働率 25名 (%)	稼働率 30名 (%)
4月	535	85.60	71.33
5月	575	85.04	70.86
6月	600	92.46	77.05
7月	605	93.07	77.56
8月	581	89.38	74.48
9月	568	87.38	72.82
10月	511	78.61	65.51
11月	521	80.15	66.79
12月	521	83.36	69.46
1月	499	83.16	69.30
2月	531	84.96	70.80
3月	588	90.46	75.38
合計/平均	6,635	86.14	71.78

## 年度別稼働率比較のグラフ



	新規契約者数	解約者数
通所介護	37	35
介護予防日常生活支援総合事業	10	2
合計	47	37

### 年度別・月別稼働率の比較と分析

(1) 合計稼働日 308 日

(2) 延べ人数 6,635 人

※ 年度別平均稼働率を見ると、定員 25 名とした場合の令和 4 年度稼働率は、85.19%であり、令和 5 年度は 86.14%と前年度に比べ 0.95%増加していますが、軽度の利用者が増えたため、事業収入としては 251,542 円の減収となっています。

月	令和 4 年	令和 5 年	月	令和 4 年	令和 5 年
4 月	5,560,157	4,964,519	10 月	5,560,710	4,802,094
5 月	4,913,518	5,205,854	11 月	5,112,101	4,695,759
6 月	5,245,670	5,444,281	12 月	4,959,090	4,823,885
7 月	5,177,599	5,494,807	1 月	4,045,972	4,385,677
8 月	5,490,377	5,163,919	2 月	4,124,557	4,614,511
9 月	5,267,835	5,013,784	3 月	4,620,784	5,217,697
合計				60,078,329	59,826,787

#### (1) 運動レクリエーションの強化について

午前・午後の 2 部制で計 2 時間の集団に向けた運動レクリエーションプログラムに変更し、身体機能の向上に取り組みました。

(2) 25名／日の利用を目指し、稼働率を上げます。

令和4年度の稼働実績は85.19%でしたが、令和5年度は86.14%であり、1日平均利用者数は21.54名でした。

新規契約者47名中45名が他の居宅介護支援事業所からの紹介であり、その要因として、ケアマネジャーとの密接な関係の構築、「デイだより」や営業活動の強化により増加したものと考えられます。今後も他の居宅介護支援事業所との関係強化を図るとともに、「デイだより」やホームページでのPR活動を強化し、新規利用者の獲得に向けて取り組んでいきます。

(3) その他の取り組みについて

① 視力回復活動（眼トレ）の実施

身体の筋力低下防止だけではなく、老眼や眼精疲労の予防のため、目の筋肉をほぐし血行を良くするために、ピント調整や眼球運動、ドライアイの改善効果があるトレーニングを実施しました。

② ハンドケア・フェイスクア(ユマニチュード)の実施

ユマニチュードを実践しながらハンドケアを行ったことで、心安らぐ時間を確保し、利用者のリラクゼーションに繋がり、精神面の安定を図ることができました。

③ 喫茶の取り組みの継続について

喫茶を行うことで、心やすらぐ時間の確保ができ、それがリラクゼーションとなり、利用者同士の会話も増え、交流のきっかけとなったと考えます。

④ 園芸療法について

昨年に引き続き、感染拡大防止の観点から、園芸活動が実施できていませんでしたが、新型コロナウイルス感染症が5類に移行されたことで、今後はグループホームと連携しながら実施していきます。

(4) 「デイだより」・「栄養だより」の発行について

デイサービスでの取り組み状況や利用者の様子などを記載した「デイだより」と栄養士による食事内容や食材の効能を記載した「栄養だより」を毎月発行し、利用者の家族やケアマネジャー等に情報発信することで信頼関係の構築に繋がり、デイサービスセンター年輪の活動やサービス内容を広く周知することができ、外部からの問い合わせも増加しました。

(5) 感染症対策の強化・徹底について

感染予防対策マニュアルを活用しながら、新型コロナウイルス感染症予防のため、マスク着用、送迎時の検温測定・手洗い・紅茶でのうがい・口腔ケアの実施・次亜塩素酸ナトリウムによる消毒の徹底に努めました。

新型コロナウイルス感染症が5類に移行したため、アクリル板は撤去しましたが、座席配置への配慮を行い、飛沫感染防止に努めました。24時間換気システム設置のうえ、定期的に窓を開閉し、換気を行っています。

(6) 本年度もほぼ全員の利用者に対し聞き取り、一部の家族に配布という形で利用者アンケートを行った結果、74%の回収率でした。アンケートの結果からサービス提供について多くの項目で「良い」「普通」という回答が得られました。

引き続き、利用者・家族の声を大切にしながら、満足してもらえるサービスづくりに努めていきたいと考えています。

アンケート調査の集計結果と利用者への回答内容（回収率 74%、78 名中 58 名回答、単位：%）

	質問内容	良い	普通	悪い	不明
1	体操の内容は充実していますか	79	12	3	6
2	午後からの個別活動の取り組みについては如何ですか	71	23	0	6
3	体操の内容は充実していますか	83	12	3	2
4	送迎時の職員の対応や乗車・降車、運転は満足していただいていますでしょうか	91	7	2	0
5	入浴時の対応は如何でしょうか	76	14	0	10
6	食事の内容について（献立、味付け、量）は如何でしょうか	83	17	0	0
7	おやつの内容については如何でしょうか	69	26	2	3
8	職員の言葉遣いや対応、服装については如何でしょうか	81	17	2	0
9	職員から利用者への体調面などへの気配りはできているでしょうか	83	13	2	2
10	プライバシーは守られているでしょうか	88	9	0	3
11	利用者の要望に対応できているでしょうか	84	14	0	2

#### 利用者からの書面による意見と回答内容

意見	食事内容について、物価の上昇により多少の価格改定が有っても良いので、できるだけ現状維持の内容でお願いしたい。
回答	物価高騰により、食事代については価格改定をしてお負担いただいておりますが、施設や管理栄養士とも相談し、食事内容の向上について検討させていただきます。

意見	おやつに和菓子が多いのでバリエーションを増やして欲しい。
回答	食事やおやつに関しては、総カロリー量を計算しながら提供しています。和・洋菓子をバランス良く又バリエーションを増やしていけるように検討させていただきます。

意見	運動内容が多く、しんどいため個々に合わせた体操を実施して欲しい。
回答	適度な運動は各自で異なりますので、運動内容の検討や体操中に無理をしないような声掛けをさせていただくなど、配慮させていただきます。

意見	軽自動車の場合、車椅子の重さに制限があるためスロープ式の送迎車を用意して欲しい。
回答	スロープ式の送迎車については、購入を検討していきます。

全体を振り返って

新型コロナウイルス感染予防のため、3年間外出イベントやレクリエーション活動が制限されていましたが、5類に移行され、行動制限緩和されたことで、イベント開催や外出が可能となり、ハーベストの丘への買い物外出や短期大学の学園祭に参加するなど季節毎のイベントや料理レクリエーションを実施したことで、利用者の心身の健康維持や生活の豊かさを促進し、楽しい時間を提供することができたと思います。これらの行事を通じて、利用者同士や職員との交流も深まり、デイサービスセンター年輪のアットホームな雰囲気築くことができたと考えています。

## ケアプランセンター 年輪

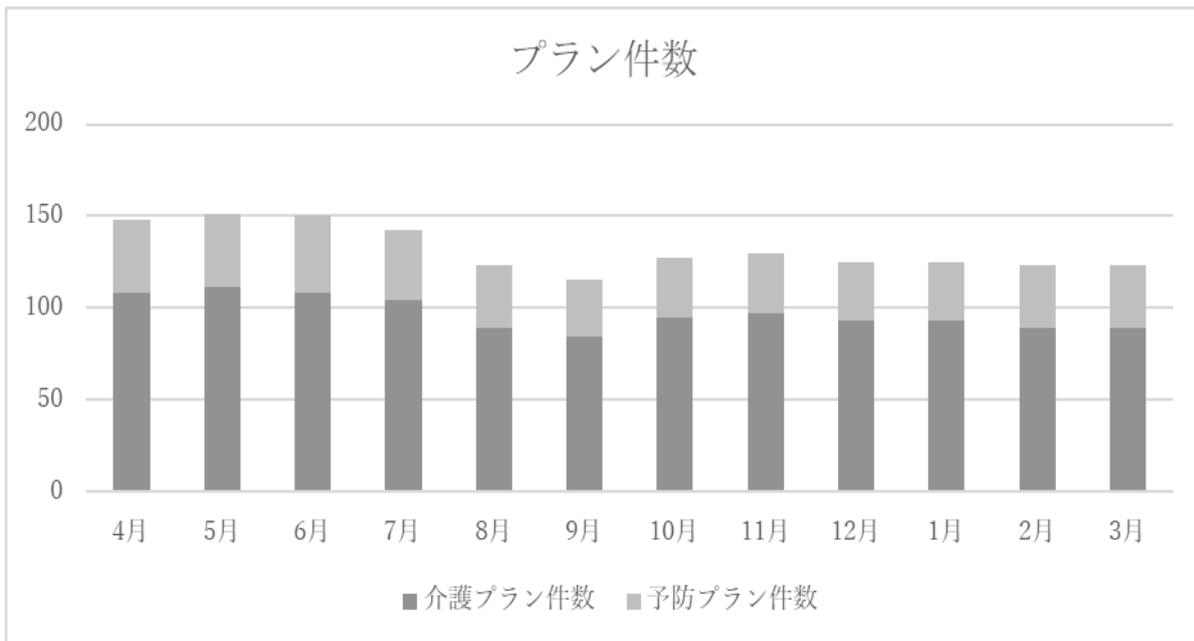
### 1 活動内容

令和5年度は、職員の入退職に伴い、ケアマネジャー3~4名(常勤換算数では3.0~4.0人)の体制で業務を行いました。

介護支援専門員在籍年数平均は、約10.3年で、主任介護支援専門員は2名在籍しています。

#### (1) 介護・予防給付 作成プラン件数推移

月	介護給付	予防給付	月	介護給付	予防給付
4月	108	40	10月	95	32
5月	111	40	11月	97	33
6月	108	42	12月	93	32
7月	104	38	1月	93	32
8月	89	34	2月	89	34
9月	84	31	3月	89	34

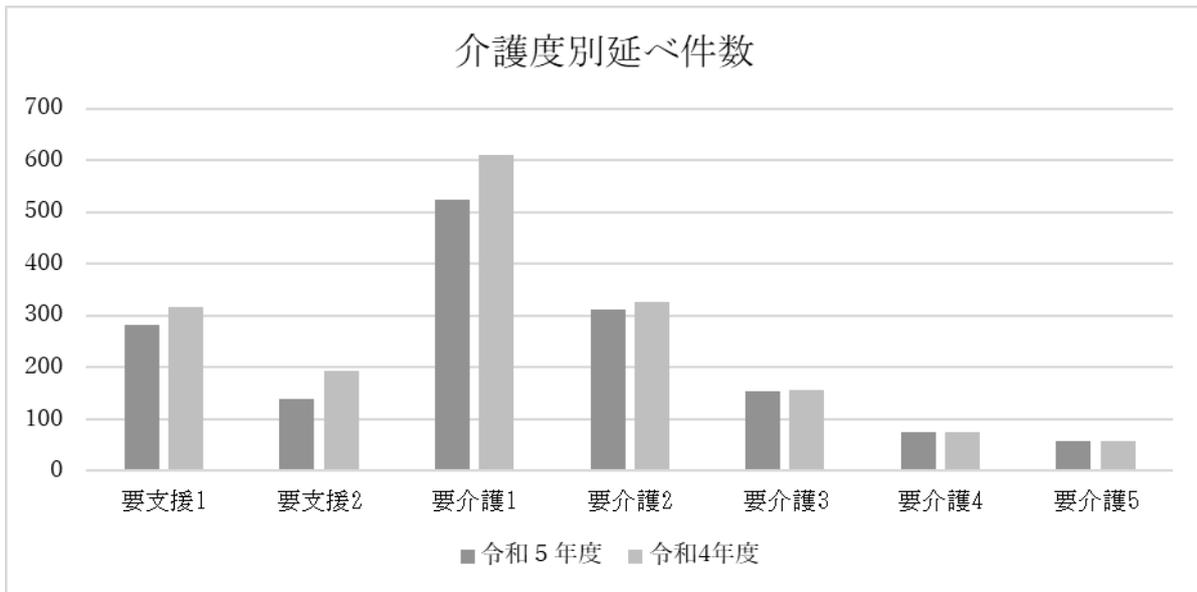


作成プラン件数は、月平均で、令和4年度は介護給付101.9件、予防給付42.5件でしたが、令和5年度は介護給付96.7件、予防給付39.1件でした。

介護給付が約5件、予防給付が約3件減となりましたが、これは、令和4年度は新型コロナウイルス感染症に伴う要介護認定の有効期間の取扱いにより、認定有効期間を延長する利用者、家族が増えたためだと考えられるとともに、職員の退職があったためだと考えます。

#### (2) 介護度別 作成プラン延べ人数、要介護度別割合

	要支援1	要支援2	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	合計
令和5年度	282	139	525	312	155	76	59	1,548
令和4年度	318	193	609	326	156	74	58	1,734



前年度と比べると要介護 1 の件数が減少しましたが、これは、令和 4 年度は新型コロナウイルス感染症にかかる要介護認定の有効期間の取扱いにより、認定有効期間を延長する利用者、家族が増え、令和 5 年度はその特例がなくなったためだと考えられます。

#### (3) 計画抹消ケース

	施設入所	死亡	退院見込みなし	他事業所移行	転居	その他
令和 5 年度	14	8	5	14	0	3
令和 4 年度	17	6	7	4	1	2

抹消ケースは、施設入所 (31.2%) によるものと他事業所への移行 (31.8%) の割合が高く、入所先は、特別養護老人ホーム、グループホーム、サービス付き高齢者住宅となっています。

他事業所への移行については、職員の退職に伴い、継続して担当すると介護報酬が減算となるため、他事業所へ紹介したことによります。

#### (4) 介護給付の新規相談経路

	家族	内部	包括	他事業所	病院
令和 5 年度	12	2	2	1	3
令和 4 年度	13	4	20	1	2

年度途中で退職者がでたため、新規の受け入れを断った月がありました。割合としては家族からの依頼が 6 割と圧倒的に多く、特に御池台や庭代台など近隣からの相談が多かったです。

#### (5) 事業所別のサービス利用内訳 (令和 6 年 3 月 31 日現在)

	要介護 1	要介護 2	要介護 3	要介護 4	要介護 5	合計
年輪+他事業所	7	9	3	3	3	25
他事業所のみ	29	18	9	2	3	61
合計	36	27	12	5	6	86

年輪と他事業所のサービス利用を組み合わせたケースは、様々なサービスを組み合わせた計画となっており、その目的に合わせた計画を作成しています。

(6) 質の向上と連携（令和5年度研修等参加一覧）

	主催	研修テーマ
4月	内部研修	ケアプラン点検
5月	内部研修	ケアプラン点検自己チェック
		認知症のあれこれ「言葉に頼り過ぎていませんか」
5月	南区居宅事業者連絡会	集団指導
		「ケアマネジャー八方塞がり 窮地に立たされる」 ケアマネの仕事どこまでするの？
6月	内部研修	認知症のあれこれ「指示が伝わりにくいのはなぜ？」
		逝き方を考える「2.5人称の死」
		ケアプラン点検実施結果を受けて
7月	堺市・堺市医師会主催	かかりつけ医と訪問看護師・ケアマネジャーの連携事例検討会「ACPのアンテナを磨くワークショップ」
		認知症のあれこれ「なぜ認知症のある人たちが挑戦をやめてしまうのか」
		逝き方を考える「死と向き合う線の視点」
7月	内部研修	精神疾患超入門「不安症・恐怖症の基本とかかわり方」
8月	大阪介護支援専門員協会 堺市南区支部	南区で地震が起こったことを想定し机上訓練をしてみませんか
9月	堺市	避難行動要支援者の個別避難計画作成講習会
10月	認知症疾患センター講演会	突然やってくる災害に備えて～災害から認知症の方を守るための基礎知識～
	ケアマネ支援部会	カスタマーハラスメントについて理解を深めるための研修会
11月	大阪介護支援専門員協会堺市南区支部	ケアマネジャーに知ってほしい感染症及び感染対策
	医療法人ペガサス	高次脳機能障害について～日常生活動作と介助のポイント
12月	ちりつも会（他法人との研修企画）	A i 解析ツールを活用して生活機能の維持・向上を考えよう
	堺市南区権利擁護部会・南区居宅介護支援事業者連絡会	高齢者虐待予防研修「ケアマネジャーが知っておきたい高齢者虐待とその支援～連携・協働について」
1月	大阪介護支援専門員協会堺市南区支部 南区居宅介護支援事業者連絡会 共催	雑談から始まるケアマネジメント
2月	堺市・堺市医師会主催	高齢者の在宅医療と救急要請～増加する高齢者救急搬送、未来に向けた私たちができること～
3月	CCコネット	介護支援専門員等病院見学実習、病院看護師等介護事業所見学実習 令和5年度フォローアップ研修
	堺市健康福祉局長寿社会部 介護保険課長	令和5年度 居宅介護支援事業者対象研修「軽度者に対する福祉用具貸与の例芸給付について」

① 外部主催では、新型コロナウイルス感染症が5類に移行し、対面での研修も増えましたが、オンラインの研修もありました。

- ② 他法人との研修を企画し、実施することができました。
- ③ 堺市が、ケアプラン点検（書類提出）を実施し、その結果を「堺市ケアプラン点検実施結果通知書」で共有しました。
- ④ 内部研修では、認知症、精神疾患、ACPなどを中心に伝達研修を行いました。
- ⑤ 地域交流などの機会がなく、交流の機会を持てませんでした。
- ⑥ 来年度もケアマネジメントについての研修や多職種協働の研修に参加し、利用者の利益とネットワークの構築を目指して研鑽していかねばならないと考えています。

(7) 今年度を振り返って

- ① 新型コロナウイルス感染症が 5 類へ移行となりましたが、引き続き予防対策を行いながら業務を実施しました。
- ② 新規相談については、他事業所や地域包括支援センターからの依頼が定期的であり、相談を受けてから時間を開けず訪問することで、利用者や家族の不安を解消できるよう努めました。
- ③ 職員の入退職があり、相談はあるものの依頼を断らざるを得ないケースが多かったです。
- ④ 対応困難ケースについては、事業所内会議で検討や進捗報告を行いました。しかし、事業所内で検討した結果、解決が困難な場合は地域包括支援センターと連携をとり、方向性を確認しています。虐待困難ケースについて、包括支援センターや地域福祉課と連携を図りながら対応しました。
- ⑤ 事業所内だけでなく、介護支援専門員に就く者全体の底上げを目的に、他法人との研修企画、参画、開催を計画し、実施することができました。
- ⑥ 介護支援専門員試験合格者実務研修実習生を受け入れました。指導・助言する立場として、事業所の質の向上が図られるよう研修への参加や定期的な会議を開催しました。
- ⑦ 多職種が関わるケースの連携方法については、そのやりとりも多岐に渡るため、対応に追われることが増えています。職種の役割の理解を深め、効率化と連携を図れるよう IT の活用などネットワークの構築が必要です。
- ⑧ 苦情対応については、事業所移行になったケースや事業所移行には至らなかったものの対応したケースもありました。苦情内容は、傾聴ができていないことや寄り添った対応ができていなかったことにより苦情に至ったと考えています。今後は、本人・家族の声を良く聞き、寄り添った対応を心掛けていきます。

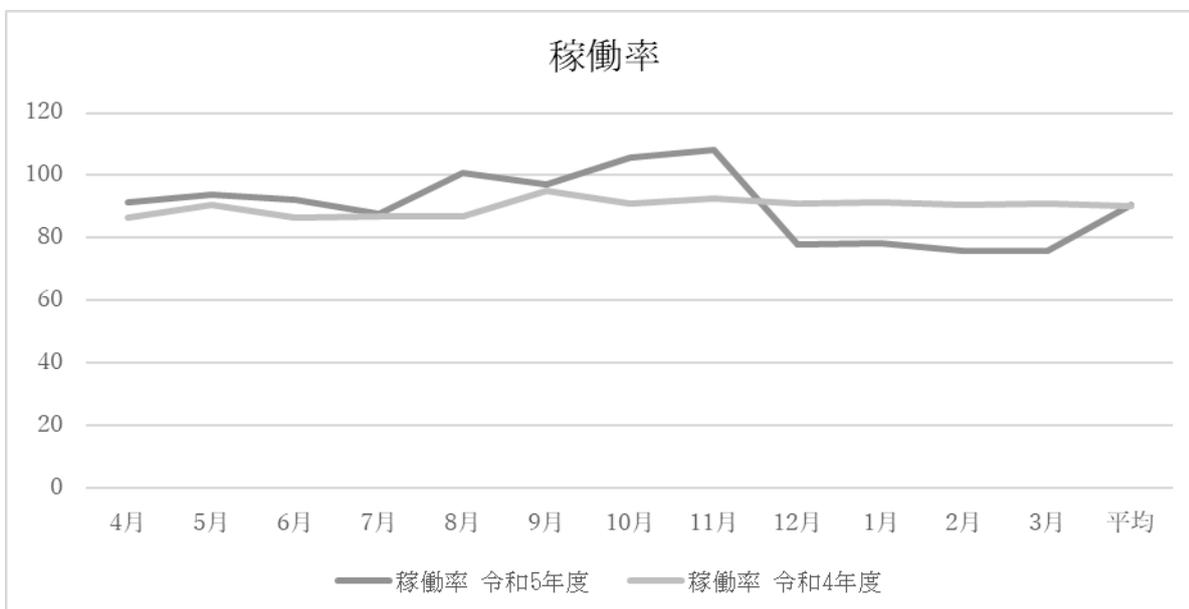
(8) 介護給付費支払い決定額（単位:円）

月	令和 5 年度	令和 4 年度	月	令和 5 年度	令和 4 年度
4 月	1,995,299	1,895,776	10 月	1,629,548	1,944,319
5 月	2,041,907	1,993,504	11 月	1,676,057	1,969,895
6 月	2,002,574	1,858,385	12 月	1,613,146	1,940,391
7 月	1,931,223	1,898,070	1 月	1,713,601	1,976,451
8 月	1,561,427	1,901,891	2 月	1,662,063	1,966,756
9 月	1,464,988	2,092,940	3 月	1,657,994	1,987,642
			合計	20,949,827	23,426,020

職員の入退職に伴い、令和5年度は常勤換算数が年度平均3.5人となり請求額が減となりました。引き続き各関係機関との連携を行い、プラン作成件数の増加に努めます。

(9) 稼働率

月	令和5年度	令和4年度	月	令和5年度	令和4年度
4月	91.4	86.4	10月	105.7	91.0
5月	93.9	90.7	11月	108.0	92.8
6月	92.1	86.4	12月	77.8	91.0
7月	87.9	86.7	1月	78.5	91.4
8月	100.9	86.7	2月	75.7	90.7
9月	97.1	95.0	3月	75.7	91.0
			平均	90.4	90.0



年間平均稼働率は、目標90%に対し、目標達成率は100.4%でした。稼働率は職員の入退職により、減少したものの年間平均の目標稼働率は達成できました。

(10) 給付外での動き

ケアプラン作成を担当している利用者からの相談の他、訪問調査の委託が数件ありました。担当件数や職員の動きをみながら依頼を受けていきます。

2 今後の課題

- (1) 職員の減少により計画作成可能件数は上限となっており、介護支援専門員を増員しなければ新規利用者の受け入れは困難となっています。
- (2) 新規相談や日々の対応については、本人・家族に寄り添いながらタイミングを逃さず支援していく必要があります。
- (3) 特定事業所加算を算定しているため、地域包括支援センターからの困難ケースの受け入れが

必須となっていることから、職員の質の向上が図られるよう研修や事業所間の引継ぎを密に行っていきます。

- (4) 多職種・他機関が関わるケースについての発信・受信方法など、効率化が図れるものについてシステムづくりやICTの活用が必須です。また、リモートワークとなった場合の環境の整備などの検討が必要となっています。
- (5) ケアマネジメントの向上を図るため、関係制度や関係機関へ適切につなげられるよう、必要な知識などの修得を促し、スキルを向上することが必要です。
- (6) 時代の変化により、より一層インフォーマルサービスの調整が必要となっています。
- (7) 人や地域とのネットワーク（つながりづくり）の構築において多職種、他機関と連携が必須となっています。

## 在宅介護支援センター年輪

### 1 地域活動内容

#### 【御池台校区】

いきいきサロン 第1・第3 水曜日	18回
小学校3年生 認知症キッズサポーター養成講座	1回
〃 担任先生との事前打ち合わせ	1回
〃 総合学習発表会	1回
校区ビューロ「ぶらりルームの出張相談」	12回
講演会	1回
まちづくり協議会・校区福祉委員	2回
防災訓練（春季）	1回
マルシェ de みいけワークショップ	1回
学校ごっこ	1回
〃 打ち合わせ会議	2回
夏祭り準備	1回
コーディネーターセミナー	1回

#### 【桃山台校区】

いきいきサロン 第1・第3 火曜日（内 予防教室 1回）	20回
令和6年度いきいきサロン・リハビリ活動について打ち合わせ	2回

#### 【庭代台校区】

いきいきサロン第3木曜日	12回
認知症サポーターの会きずな役員会	6回
認知症家族の会	5回
認知症相談	5回
認知症サポーター養成講座（地域住民対象）	1回
予防教室（落語会/体操）	1回
ココ・ヨミトリ-ナ実演	1回

#### 【民生委員・児童委員との関わり】

御池台・庭代台・桃山台（活動と個別相談）

## 2 個別ケース対応

### 【相談件数】

		新規相談	再相談	合計			新規相談	再相談	合計
4月	高麗者	2	8	10	10月	高麗者	3	6	9
	その他	0	0	0		その他	0	0	0
5月	高麗者	2	4	6	11月	高麗者	2	6	8
	その他	1	3	4		その他	0	0	0
6月	高麗者	2	5	7	12月	高麗者	4	5	9
	その他	1	6	7		その他	0	0	0
7月	高麗者	1	8	9	1月	高麗者	2	2	4
	その他	0	0	0		その他	1	0	1
8月	高麗者	2	7	9	2月	高麗者	4	5	9
	その他	0	0	0		その他	1	0	1
9月	高麗者	3	3	6	3月	高麗者	1	4	5
	その他	2	2	4		その他	0	2	2

## 3 その他活動

- (1) 認知症サポーター養成講座 4回
- ① 御池台小学校3年生（自治会長、グループホーム職員と協働）
  - ② 庭代台地域
  - ③ 市民対象（合同）
  - ④ 成美高校（看護系・福祉系）
- (2) 南区高齢者関係機関会議 1 / 月（6、8、10、11 月休会） 8回
- ① 行政機関（南消防署・南堺警察署・南区地域福祉課・南保健センター）
  - ② 社会福祉協議会（社会貢献事業・統括課地域活動推進係・基幹型包括支援センター）
  - ③ 地域包括支援センター、在宅介護支援センター等
- (3) 南区認知症支援部会会議 1 / 月 12回
- 保健センター、基幹型包括支援センター、地域包括支援センター、在宅介護支援センター  
社会福祉協議会統括課認知症地域支援推進員、阪南病院ソーシャルワーカー
- (4) 南区コミュニティソーシャルワーカー連絡会 2回
- 大阪府社協社会貢献支援員・堺市社協 南区事務所・地域活動推進課・子育て支援課  
基幹型包括支援センター・南区障がい支援センター・すてっぷ堺・  
特別養護老人ホーム5か所・ケアハウス（軽費）3か所  
保育等部会4か所・大阪府立女性自立支援センター・せんぼく障害者作業所等
- (5) その他の会議及び活動
- ① 地域情報共有会 1回

② 認知症サポーター養成講座打ち合わせ	2回
③ フォローアップ講座	1回
④ さかい地域包括・在宅介護支援センター協議会 南区会議	1回
⑤ 堺市7区合同代表施設、副代表施設、CSWマイスター等連絡会	2回

#### 4 まとめと今後の課題

(1) 新型コロナウイルス感染症の位置づけが令和5年5月8日から「5類感染症」へ移行となり、感染対策としてのマスクの着用については、個人の主体的な選択を尊重し、その判断が基本となりました。

それに伴い、地域活動も通常の形で行われ、殆どの方が感染対策でマスクを着用されて参加されていますが、参加者同士の会話が弾み、活気が戻ってきています。

(2) コロナ禍の影響で参加者が減少している校区がありましたが、新しい参加者もあり、参加者人数も徐々に増えています。

しかしながら、コロナ禍で体調を崩された方や高齢化に伴い身体機能の衰え等で会館までの行き来が困難となり、参加し難くなる方や認知症の方も増えてきています。

(3) 高齢者の1人暮らし・夫婦世帯が増え続ける中、高齢者の孤立や孤独感を防ぐためにも、『フレイル予防』『認知症予防』『地域のつながり』が課題となります。

(4) 高齢者関係機関会議は「認知症支援に向けた高齢者の見守り」、認知症支援部会は「本本人家族の場づくり、キャラバンメイトの活動場所の提供」をテーマに、“南区高齢者見守りネットワーク交流会”“本人・家族の交流会”“認知症サポーター養成講座”等を開催、課題を共有しながら連携して取り組みました。

(5) 社会貢献事業「しあわせネットワーク大阪」における相談が5件あり、うち3件は生活保護受給までの食材費、施設入所にあたっての家財整理費用、成年後見制度に繋ぐことで光熱水費用等で経済支援を行いました。

(6) 今後も認知症にやさしい地域づくりができるように、高齢者関係機関との連携をとり、啓発活動に取り組んで行きたいと考えています。

(7) また、今後も高齢者の孤立や孤独を防ぐために、近隣や地域とのつながりを持てるように、地域への啓発や活動の場づくりが必要と考えます。

(8) 老人福祉法に基づく地域活動等へ参加し、身近な相談窓口として活動を行い、関係機関との連携を保ちながら、これまでのノウハウと地域とのつながりを大切に、地域の特色を活かした活動ができるよう、可能な限り地域活動に参加することで、地域の生の声を聴きながら支援して行きたいと考えています。

## グループホーム年輪

### 1 事業内容について

#### (1) 防災・防災管理

火災探知機とスプリンクラーを各部屋に設置しており、全職員にその操作等を周知するために火災受信盤の使い方マニュアルを作成しています。また、防災訓練を実施し、全職員が迅速な対応で防火・防災に努められるように統一しました。

#### (2) ミーティング

ケア会議を行い、全職員が同じ介護を提供できるように記録に残しました。また、より良く把握するため、申し送り・記録の徹底に努めました。

#### (3) 生活活動

① 過去の記憶や感情を蘇らせ、発語量や活動レベルの向上に努めるとともに、散歩や外出する機会を作り、季節を感じていただけるように努めました。

② 身体機能を活かした運動を取り入れ、毎朝体操を実施しました。また、頭の体操では、脳トレを実施して、認知症予防に努めました。

#### ③ 制作活動

季節ごとの壁画や毎月のカレンダー作りを行いました。

#### ④ 家族様との交流

6月以降は面会の制限もなくなり、外出や外泊など家族との交流の機会を持てるように努めました。

⑤ 全員参加の外出活動は実施できませんでしたが、密にならないように個別での外出支援を実施しました。

### 2 利用者状況

(1) 下記の表を参照(入所者 女性 9名)

令和6年3月31日現在

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
入所	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1
退所	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1
入院	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2
現員	9	9	9	9	9	9	9	9	9	9	9	9	9
稼働	100	92.8	95.5	100	100	100	100	100	98.2	100	100	100	98.3
延べ	270	259	258	279	279	270	279	270	274	270	252	279	3,248

(2) 年齢状況 (平均年齢88.3歳)

単位：人

年齢	77歳	82歳	83歳	91歳	92歳	95歳
人数	1	2	1	1	3	1

(3) 介護度別状況 (平均要介護度 3.1)

介護度	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5
人数	1	2	3	2	1

(4) 身体状況 (単位:人)

移動	歩行		自立	4	入浴	自立	0
			一部介助(見守り)	4		一部介助	8
			車椅子	1		全介助	1
排泄	トイレ	日中	自立	5	着脱	自立	2
			介助	4		一部介助	7
			全介助	0		全介助	0
			常時パッド	3	食事	自立	6
	夜間	自立	5	一部介助		3	
		介助	4	全介助		0	
		全介助	0				
		常時パッド	4				

※ 外出等の長距離移動時は、4名が車椅子対応

(2) 精神的状況

利用者全員が軽・中度の認知症の方であり、日により不穏と興奮がありました。また、特に違った環境に置かれると、一時的に今どこにいるのか分からなくなることがあるため、丁寧な声掛けや見守り介護に努めました。

3 運営推進会議実施報告

(1) 第84回 令和5年5月9日(火)開催

入退所状況、活動状況報告、南区グループホーム情報交換会報告、事故・ひやりハット報告・身体拘束、行事報告・予定、啓発活動状況報告・予定

(2) 第85回 令和5年7月11日(火)開催

入退所状況、活動状況報告、南区グループホーム情報交換会報告、事故・ひやりハット報告・身体拘束、行事報告・予定、啓発活動状況報告・予定

(3) 第86回 令和5年9月12日(火)開催

入退所状況、活動状況報告、南区グループホーム情報交換会報告、事故・ひやりハット報告・身体拘束、行事報告・予定、啓発活動状況報告・予定

(4) 第87回 令和5年11月14日(火)開催

入退所状況、活動状況報告、南区グループホーム情報交換会報告、事故・ひやりハット報告・身体拘束、行事報告・予定、啓発活動状況報告・予定

(5) 第88回 令和6年1月16日(火)書面報告

新型コロナウイルス感染症の影響により中止し、書面・書類での報告となりました。

南区第2地域包括支援センター・自治会長・各グループホーム・家族

(6) 第89回 令和6年3月12日(火) 書面報告

新型コロナウイルス感染症の影響により中止し、書面・書類での報告となりました。

南区第2地域包括・自治会長・各グループホーム・家族

4 南区グループホーム情報交換会

3か月毎に開催し、各施設の空室・待機状況の報告をし合ったり、学習会を実施したりしていましたが、新型コロナウイルス感染症の影響で、未だ書面でのやり取りとなっています。

地域に向けた啓発活動・寸劇・南区グループホーム風船バレー大会ニコニコピックも中止となっています。

5 行事報告

	グループホーム独自の行事
5月	ガーデンパーティー・バーベキュー
7月	夏祭り
8月	お誕生日・手作りケーキ
9月	敬老会・お月見
10月	ハロウィン
11月	お寿司・ピザテイクアウト(4周年記念)
12月	クリスマス会
1月	初詣(多治早売神社)・お誕生会・手作りケーキ
2月	節分
3月	雛祭り・コスモス花見外出

6 認知症共用型通所介護「和みの話 年輪」(定員3名)

入居者と一緒に日常生活をしています。美味しい食事や散歩を楽しみながら、機能の維持と脳トレによる認知症状の軽減を目標に支援を行っています。

利用者数(単位:人、%)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
登録者	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
延人数	13	13	13	12	12	13	13	12	12	11	13	12	149
稼働日	26	27	26	26	27	26	26	26	25	24	25	26	310
稼働率	17.3	16.0	16.6	15.3	14.8	16.6	16.6	15.9	16.0	15.2	17.3	15.3	16.0

## 7 反省と今後の目標（グループホーム・デイサービス和みの話 年輪）

- (1) 利用者の方ができることを活かし、又やりたいことができるように、全職員が利用者の状態を把握し、迅速・的確な対応ができるように、業務内容の改善や利用者に対しての気づきをノートに記録して、毎月のケア会議において意見交換・情報共有を行い、個別ケアに対応していきます。
- (2) デイサービス和みの話の利用者も入居者と一緒に行うお菓子作り、楽しみであるレクリエーションへの参加機会を定着することができるように、実施内容を工夫して余暇活動を支援します。
- (3) 高齢の方も多く、少人数で参加できる外出支援や天気の良い日には個別で公園などへの散歩を行い、外気浴と気分転換に努めていきます。
- (4) 眠りスキャンを取り入れることで、夜間の睡眠パターンを把握し、質の良い睡眠を確保していきます。